

ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX072-872-2268

大東市憲法週間記念のつどい

5月9日(土)キラリエホール 蓮池薫氏 講演会

「夢と絆」

～北朝鮮での24年間、そして今～

キラリエホールにぎっしりの約550名の講演参加者を前に、蓮池薫さんが北朝鮮による拉致問題についてご自身の体験を赤裸々にお話しされました。

「若い人にこのことを積極的に伝えて、何十年先にも

北朝鮮による拉致問題について高い関心を持ち続けてほしい。」



100分に及ぶ蓮池さんの講演は、まさに自分自身の魂を、聞いている人たちにぶつけるような勢いで語り続けられました。それは、24年間にわたる北朝鮮での拉致生活を今後二度と誰にも起こさせぬようにという強い思いと、すでに起こった拉致被害(者)にとって出来得る限り罪を償うことを北朝鮮に求めたいという思いからだったと思いました。

蓮池さんは、①北朝鮮が日本人を拉致した目的について ②小泉首相が北朝鮮を訪問して、北朝鮮は拉致を認めた。その理由について ③ある段階から、「解決した。」と態度を変えた背景についての三つの点を中心に講演されました。

そのすべてが、具体的でした。蓮池さんの求めにより、ここでは詳細については述べることは控えますが、まさに昨日起こったことのように、正確で、鮮明に、臨場感あふれる語り口で述べられました。ときには、「ここは推測の域を出ませんが」と断り、ご自分が体験されたことと、第三者から聞かれたことを明確に分けてお話しされていました。そこに蓮池さんの誠実な人柄を感じる人も多かったと思います。

特に、拉致の目的を説明されるところで、どうやって自分たちが拉致されたのか、順を追って説明されたところは、初めて聞く話だったので、驚きました。そして、そのとき拉致された人たちの恐怖感も伝わってきました。身動きできないような状態で船に乗せられ、朝鮮半島まで海を渡るときの恐怖心。加えて、どういった人たちを狙って、拉致したのかもお話しされました。そこには北朝鮮の執拗ともいえる事前準備がうかがえました。正直、そこまでやるのかと憤りを感じました。

2002年、当時の小泉首相が北朝鮮に行き、北朝鮮が拉致を認めました。「絶対に認めない」と誰もが思っていたのに、このときに拉致を認めたのです。その理由について語られたときには、当時の北朝鮮という国の事情がはっきりと伝わってきました。事情はどうであれ、外国人を拉致して自分の国の利益を得ようとするのは、言語道断と思います。加えて、北朝鮮が、日本人の拉致被害者4名を生存者として報告し、拉致した8名は既に死亡したと日本に報告した内容については、その証拠のいい加減さ(嘘とすぐにわかる内容)に北朝鮮の無責任さを強く感じました。怒りも覚えました。

次に、いよいよ帰国の話が出たときの蓮池さんたちの心境についてお聞きすると、「ああ、そうだったのか。考えてみればそうだろうな。」という思いを抱きました

そして、終わりに冒頭に記した「若い人にこのことを積極的に伝えて、何十年先にも北朝鮮による拉致問題について高い関心を持ち続けてほしい」という言葉で締められました。この拉致問題を風化させてはいけません。聞いている私たちも強く共感しました。帰路に参加者から「やはり、聞いてみないと真実は分からないね。」とか「この拉致のことは知っていたつもりだけど、蓮池さんから、ものすごく具体的に教えてもらって、より大きなことだと思った。」などの声が聞かれました。

大きな期待をもって参加した講演会でしたが、その予想を上回る内容に、記憶に強く残る講演会となりました。

(レポーターがんちゃん)



2026 ヒューマンコンサート

あきらめない心 ~ハンデの壁を超えて奏で続ける感動のメロディ

~元パラリンピック競泳日本代表・伊藤真波^{まなみ}さんによる講演 & バイオリン演奏~



毎年恒例のヒューマンコンサートが2月1日、大東市立総合文化センター「サーティホール」(小ホール)で開催され、約170人の市民が来場しました。昨年が続いて今年も大東市と「ぬくもりネットだいてう」、そして大阪産業大学(菊地真理ゼミ)の「官民学」で協働した魅力あふれるイベントとなりました。

伊藤真波さんが語る絶望からの再出発、そして挑戦

幼い頃からの夢を叶え、看護学校に通っていた20歳の時、伊藤真波さんはバイクで実習に向かう道中に凄惨な交通事故に遭います。トラックの車輪に巻き込まれ、何十時間にも及んだ手術の末に右腕を切断することになった当時の葛藤や両親との対話は、心に迫るものがありました。

「両親のために幸せになってみせる」

そう決意した伊藤さんは、看護学校の熱心な支援も受けながら、血のにじむような努力で義手を使いこなし、日本初となる「義手を用いた看護師」となりました。



義手でバイオリンを演奏する伊藤真波さん

さらに看護師として働く傍ら、競泳選手として 2008 年北京、2012 年ロンドンのパラリンピック 2 大会に連続出場。スポンサーやコーチもすべて自ら見つけ、道を切り拓いてきたそうです。2015 年に結婚し、現在は夫と手探りで協力しながら、3 人の娘を育てる母親としても奮闘されています。

心揺さぶる「義手のバイオリン演奏」

講演の最後は待ちに待ったバイオリン演奏です。不可能と言われた「バイオリン用義手」の開発をチームの絆で諦めずに成し遂げた背景も紹介。2025 年 11 月には、世界初「義手によるバイオリニスト」としてギネス世界記録に認定されたその演奏に、観客の期待が高まります。

今回は「企画してくれた学生たちの思いに応えたい」と、若者に人気の Mrs. GREEN APPLE の『ダーリン』を猛練習して初披露するなど、計 4 曲を熱演。「一生懸命に弾く姿を見てほしい」という言葉どおり、スクリーンに映し出される写真や歌詞とともに紡がれる情熱的な旋律に、会場全体が深い感動に包まれました。

企画から運営まで、学生たちが取り組んだ 4 ヶ月

この感動の舞台を裏で支えたのが、大阪産業大学・菊地ゼミの学生 11 名です。昨年 10 月からグループに分かれて企画を練り上げ、決定後も広報チラシの制作や、市内の教育・福祉関係団体への熱心な広報活動に奔走してきました。

コンサート当日も、リハーサルへの立ち会いから会場設営、受付、誘導までを主体的に担い、来場者を温かく迎えました。約 4 ヶ月間、仲間と共に悩みながらも一つのイベントを創り上げた学生たちの表情は、大きな達成感に満ちあふれていました。



コンサート終了後、伊藤真波さんとその家族、実行委員会と学生らが記念撮影

(レポーター かわかず)



第 43 回人権パネル展

誰も取り残さない社会のために 災害と人権 パネル展

人権啓発ネットワーク大東(ぬくもりネットだいてう)では、毎年、5 月のゴールデンウィークに“のぎきまいり”でにぎわう野崎観音会館で人権啓発パネル展を行っています。

今年のテーマは、『災害と人権』でした。東日本大震災以後にも、日本の各地で自然災害が起こっており、そのたび私たちは災害に備えるようアンテナを高くしてきています。このパネル展では、誰もが安心して過ごせる避難所とはどういったことなのかについて、改めて考えさせられました。



女性や子ども、お年寄りや外国の方、障がいのある方や LGBTQ、すべての方の「命を守る」防災の基本に「尊厳を守る」ことの大切さがあること、そして平時の「つながり」が最強の防災になることを確認できたパネル展でした。

(レポーター きむさん)

現在、世界の至る所で戦争や内戦が起こっています。人権侵害の最大のものが戦争とされています。そこで、ぬくもりネットだいの広報委員が各自の平和や戦争への思いを書きました。ぜひ、ご覧になってください。

- ① 世界から戦争を今すぐなくすことを強く求める。
 一子どもたちに胸を張って説明できる社会を一 : がんちゃん
- ② 小さくてもいいので何かしらの行動を : かわかず
- ③ 平和のために私にできること : 卓ちゃん
- ④ 私にとっての戦争とのつながり : あき

こちらからお読みいただけます!



★ 会員募集

人権意識をたかめるための研修会などへの参加・参画。
 人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。
 会費等はありません。

★ ヒューマンライター募集

大東市で人権推進につながる取り組みを行っている方々の
 取材をしていただける方（ヒューマンライター）を募集します。

【応募方法】様式は問いません。

ご住所 お名前 電話番号を記載の上 郵送、FAX でお願います。

〒574-8555 大東市谷川1-1-1

大東市役所（市民生活部 人権室内）

人権啓発ネットワーク大東事務局

TEL：072-870-0441

FAX：072-872-2268

ぬくもりネットだいの
 マスコットキャラクター



はぴくる

Facebook(フェイスブック)

人権啓発ネットワーク大東の活動がみなさんに届くよう、Facebook
 ページを開設しました！ぜひ、フォローお願いします！

(Facebook で「人権啓発ネットワーク大東」を検索！⇒)

